

平成 30 年 12 月 6 日

極東貿易株式会社

代表取締役社長 三戸 純一 様

ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

足元の株価が一層下落しております。過去の弊社と当社との面談内容を踏まえ、今の株価と真剣に向き合っていたいただきたく、手紙を書いております。以下は今までの対話の概略です。

- 8 月 21 日（当社株価終値 1,740 円）、株価が大きく下落した際の、自社株買いの有効性をお伝えする書面をお送りしました。
- 9 月 4 日（当社株価終値 1,785 円）、当社が EV/EBITDA 倍率でみて割安であること、安い株価の状態でも自社株買いも何もしないことは「安い株価が正しいと追認」していることと同じ意味であることを直接お伝えいたしました。
- 10 月 18 日（当社株価終値 2,029 円）、当社の EV/EBITDA 倍率が市場を大きく下回っており、自社株買いを行うことで株主価値を向上させることができることを再度お伝えする書面をお送りしました。
- 11 月 26 日（当社株価終値 1,804 円）、ご来社いただいた苫米地常務には、真剣に株価を上げることを検討していただきたい旨、直接お伝えいたしました。

私共は、実現不可能なご提案をしているのではなく、株主価値向上のための自社株買いを一貫してお願いしています。

しかしながら、当社は何の行動も起こすことなく、12 月 6 日終値は 1,620 円まで下落しています。これは、危機的状況です。

当社の EV/EBITDA 倍率より高い比率での M&A を実行するよりも、自社株買いを行うことの方が、はるかに合理的な経営判断のはずです。何故、当社取締役会がこの合理的判断をされないのでしょうか。

当社株主価値向上のため、是非とも迅速なご決断をお願いいたします。

株式会社ストラテジックキャピタル